

千葉市稲毛海浜公園自然観察会

冬こそ探そう！公園の鳥たち

平田 稚江子（千葉市）

日 時：2023年2月18日（土）10:00～12:00[干潮 9:55 頃]

参加者：24名（大人20名 高校生1名 子ども3名）

担当指導員：山口 田島 平田 事務局：伊藤

2月とは思えないほど暖かく晴天に恵まれた観察会となりました。参加者のほとんどが大人の方でしたが、熱心な高校生や“鳥にはまっている”小学生なども参加して鳥の種類は少なかったですが、観察中質問も多く、充実した観察会になりました。

初めに、木造船（打たせ船）の展示場所で、昭和30年代半ばまで海岸は広大な干潟が延々と広がり遠浅で、古くから盛んにアサリなどの貝とりや漁がおこなわれていたことなど当時の様子を説明しました。子どものころ潮干狩りなどに訪れた方もいらして懐かしそうに話しに聞き入っていました。

林の中に入っていくと早速鳥の声が聞こえ上を見上げました。スダジイ、マツ、マテバシイ、タブなどの常緑樹で探すのに苦労しましたが、冬ならではの混群で、メジロ、シジュウカラ、エナガ、コゲラなどが飛び交っているのが観察出来ました。明るい芝生のところでは、ツグミ、ハクセキレイをじっくり見て、ツグミの歩き方や、ハクセキレイとセグロセキレイの見分け方などを話しました。また、きれいに咲いているヤブツバキのところでは花びらに穴が開いていたり黒いしみがあつたりしたものを見つけ、メジロが蜜を吸うときぶら下がった足跡と説明するとビックリされていました。

池ではコサギが松の木に仲良く3羽止まっていました。ユリカモメが数羽、オナガガモの群れは30～40羽くらいいたでしょうか、ひっそりとカルガモも2羽泳いでいました。オナガガモはパートナーを探していたり、採餌中だったり、岸に上がってのんびり羽づくろいをしていました。羽づくろいの時に尾の付け根にある尾脂腺から分泌される油分をくちばしにつけて羽毛にすりこむようですが、なるほどそのような姿が確認されました。海に出ると、突堤に等間隔でカワウ、アオサギ、アオサギと置物のように立っていました。下にはヒドリガモが数羽。ゆっくり望遠鏡で観察出来ました。

最後に、野外ステージのところでは、鳥合わせをして終了しました。海で3公園・池で14合計17種類になりました。



ヤブツバキのところではメジロの足跡確認



まとめと鳥合わせ